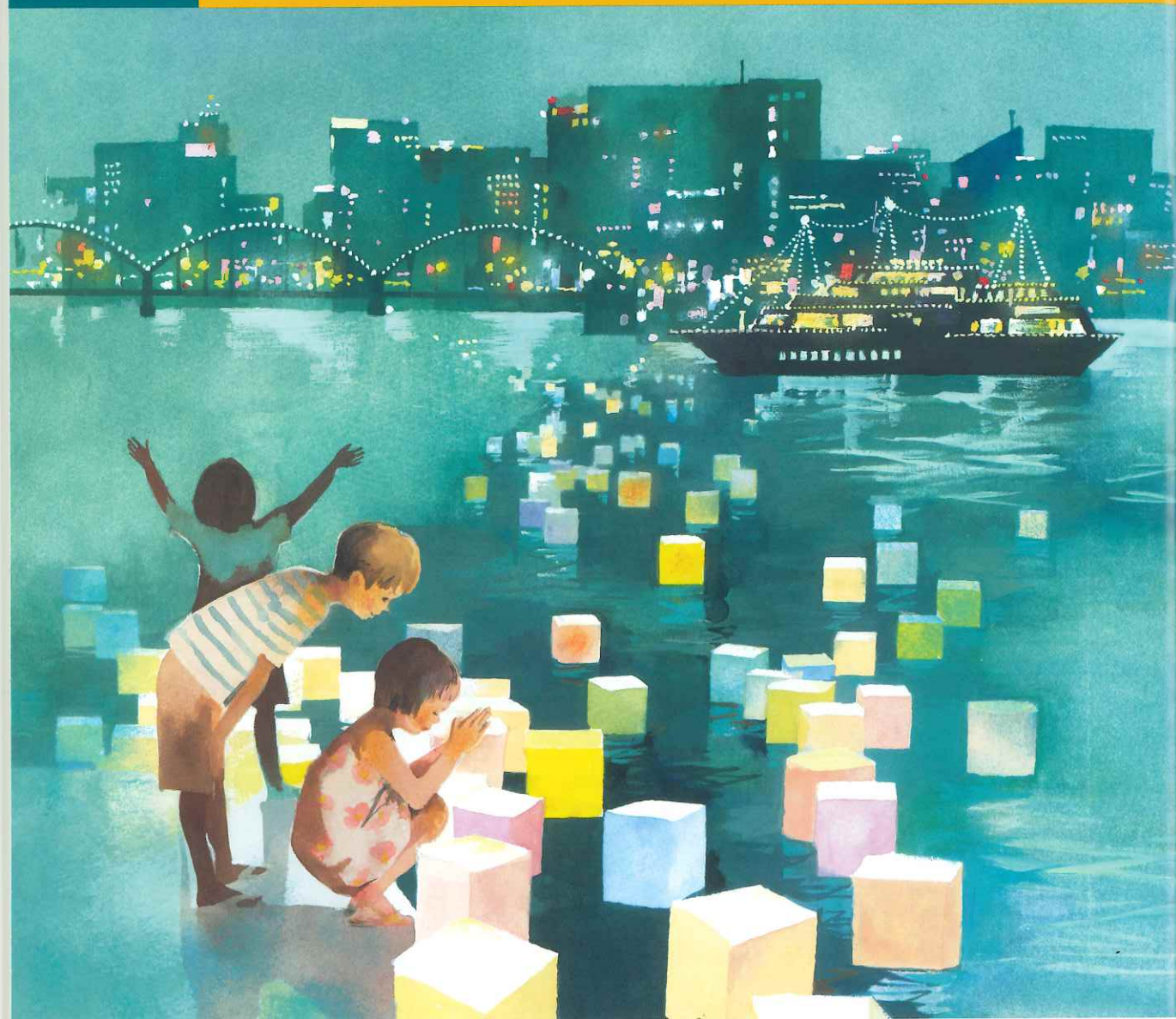


8
令和2年

心の生涯学習誌
れいろう



〈れいろうカレッジ〉(今月のテーマ)

いのちの生かし方

野本廣之

モラロジー研究所 生涯学習講師

川村妙慶

真宗大谷派僧侶
フリーアナウンサー

〈思春期の処方箋〉

自信をなくしたわが子に
親ができる3つのこと

花まる学習会 箕浦健治

思春期の処方箋



8



みのうらけんじ 箕浦健治
花まる学習会 野外体験部 部長

昭和48(1973)年、大阪府堺市生まれ。「自然の中で過ごす」上での学びに注力するだけでなく、「親との連絡一切禁止」「友だち同士の参加禁止」という新しい切り口から子どもたちに「ミニ社会」経験を積ませ、将来社会に出て「メシが食える大人」を育てている。著書に「4歳〜9歳で生きる基礎力が決まる! 花まる学習会式1人でできる子の育て方」(日本実業出版社)。

反抗し、秘密を持ち、葛藤で心をヒリヒリさせている思春期の子どもたち。この時期の接し方について悩むすべてのお父さんお母さんに、「花まる学習会」の講師たちが心の処方箋をお届けします。

「自分」について悩んだら 「誰かのため」に 喜んでいよとしてみよう。

きみのおかげだ

そんなKくんが小学校最後の冬休みに参加したのが雪国スクールです。最初、Kくんは班の仲間から常に外れ行動し、周りが仲良くしようとしてもすべてを拒絶しました。

一日目の夜、子どもたちが楽しみにしている「かまくらのお餅を食べるイベント」がありました。

ところが、昼間の気温が高かったため、かまくらは少し崩れていました。それを見た宿の主人が、六年生のKくんにかまくら作りを手伝ってほしいと、スコップを手渡したのです。Kくんは無言でスコップを持ち、主人の後についてかまくらへ。「ここにきれいな雪を載せてたくさんだ」と教わると、Kくんは一時間以上も作業を続けました。

夕食の時間になり呼びにいくと、「もう少しだけやらせてください」と、彼は真剣なまなざしでお願いしてきたのです。この雪国スクールで初めて見るKくんの強い意思。私はKくんを宿の主人に任せ、気づかれないようにそばで見守ることにしました。「Kは本当に頑張り屋だな、いてくれ

このコーナーの感想を
ぜひお寄せください!
<http://bit.ly/reirou0208>



て助かるよ」「そこはもつと力強くたたかないと意味がないぞ」「このかまくらを見たらみんな喜ぶぞ」宿の主人は絶え間なくKくんに話しかけていました。

そして、完成した立派なかまくらの前に、子どもたちは歓喜の声を上げました。宿の主人は、「Kがいなかったらあの笑顔を見ることはできなかった。本当にありがとう、Kのおかげだ」と、Kくんの頭をなでながら伝えました。それを聞いたKくんの頬を、涙がゆっくりと伝ったのです。

雪国スクール後、Kくんのお母さんから、彼が人とかかわるようになったこと、両親に「ありがとう」を言うようになったこと、また、人のためになることを進んでやるようになったことを聞きました。宿の主人に必要とされ、周りの喜びに「自分」を見出したことで、一人倍の優しさの中に強さを兼ね備えたKくんになったのだと思いました。

「自分」の存在

思春期の子どものかわりでお勧めしていることが三つあります。

万能感の幼少期 自信を失う思春期

花まる学習会の野外体験部部長として、野外体験の現場に立ち、延べ七万人もの子どもたちを預かってきました。今回お話しするKくんとの出会いは、雪国スクールという野外体験プログラムでのことでした。

「俺は誰からも必要とされていない」「自分がいなくても誰も困らない」

これが、小学校卒業を間近に控えたKくんの口癖でした。

早熟で賢く、周りの人の機微に敏感な少年。困っている人を見ると手を差し伸べることができる、人一倍優しい子です。

けれども、自分はなんだってできるという万能感で生きてきた幼少期とは違い、思春期を迎え、できない自分、理想の自分との乖離に苦しみ、自信を失っていました。

思春期を迎えると、世界や自分とどう対峙したらいいのか戸惑い、家族や周りの友人とじょうずに関係を築けなくなる子も少なくありません。

一つ目は、外の師匠をつくること。近所のおじちゃんや習い事の先生など、ときには叱られても最後は頑張りを認めてくれる人が多ければ多いほど、子どもによい影響を与えます。

二つ目は、親が口を出しすぎないこと。ただし、子どもから話しかけてきたときは、じっくりと聞くこと。「話したい」という気持ちは信頼のサイン。子どもの抱えている問題を子どもの側に立って一緒に考え悩むことは、親だからこそできることです。正解は出なくても、子どもの気持ちを真剣に受け止める姿勢が信頼の基盤となります。

三つ目は、親が自分の思春期の経験を語ること。親から等身大の話の聞いて「うまくいかないことや失敗も悪いことではない」と気づき、「これでいいんだ」という肯定や、失敗を恐れないさまざまな人生経験へつながるでしょう。思春期は、脳と体が劇的に変化し、自問自答を繰り返しながら自我を確立していく時期です。「自分とは」といった哲学につながる深い思考も可能になります。誰でも一度は通る道。この時期の経験と葛藤こそ、「自分」と出会えるきっかけになるかもしれません。